

**第20回「海の日」特別行事  
”海でつながるプロジェクト”  
IMO世界海の日パラレルイベント2015の開催結果について**

国土交通省海事局は、第20回目の海の日となる7月20日（月・祝）及び翌日21日（火）に、世界海事機関（IMO）及び「海の日」特別行事実行委員会との共催により、日本初となる「IMO世界海の日パラレルイベント2015」を下記のとおり開催いたしました。

当イベントは、20日に太田国土交通大臣出席の下で行われた開会式で幕を開けました。その後、2日間にわたり「海事の教育及び訓練」をテーマに国際シンポジウムを開催し、議論の結果を『横浜宣言』としてとりまとめました。あわせて、2日目には開催地である横浜市において、日本の海事遺産等を巡るエクスカージョンを開催しました。そして、閉会式では、西村副大臣が当イベントの総括を行うとともに、次期開催国であるトルコに開催国旗を引継ぎました。

今般のイベントをとおして、世界60か国からの約160人を含む400人を超える方々にご参加いただき、盛況のうちに幕を閉じました。

記

1. 日 時      7月20日（月・祝） 10：30～18：15  
                 21日（火）      10：00～18：15

2. 場 所      20日：キャピトルホテル東急（東京）  
                 21日：ホテルニューグランド（横浜）

**3. 開催概要**

**7月20日（月・祝）**

**（1）開会式（10:30～10:55）**

主催者である太田国土交通大臣、IMO 関水事務局長、「海の日」特別行事実行委員会 宮原会長からそれぞれ挨拶を行いました。

太田国土交通大臣は、世界における海事産業・海洋開発産業の重要性と、これらの産業を支える人材の育成に世界の海事関係者が一体となって取り組むことの必要性について述べ、当国際シンポジウムにおいて、人材育成について未来への方向性が示されることへの期待を表明しました。

関水事務局長は、海事人材の今後の需要見通しや、人材育成に関するIMOの取組等も紹介しながら、質の高い人材を育成することの重要性について述べられ、当国際シンポジウムにおいて「海事の教育及び訓練」をテーマに議論を行う意義について説明されました。

宮原会長は、人材育成をテーマとした国際シンポジウムを開催することへの評価、

エクスカージョンを通して海外の方が海洋国日本についての理解を深めることへの期待について述べられるとともに、全国的に展開している関連行事やイベントへの参加を呼びかけられました。



開会挨拶の様子

## (2) 国際シンポジウム (11:00~18:15)

「海事の教育及び訓練」をテーマに、「海事教育・訓練に関するこれまでの取組」、「海事から海洋への広がり」、「次世代に海を親しませるための教育」、「将来の海事教育・訓練のあり方」の4つのセッションを行いました。



## (3) レセプション (19:00~21:00)

パラレルイベントの参加者に加え、関係国会議員の方にもご参加いただき、当イベントの開催を祝うレセプションを開催しました。



鏡開きの様子

7月21日（火）

（1）エクスカーション（10:00～14:30）

21日に横浜港で、海外からの参加者や在京大使館からの参加者の方々を対象に、日本の海事遺産等を巡るエクスカーションを開催しました。具体的には、「帆船・日本丸」、横浜みなと博物館、三菱みなとみらい技術館、大棧橋、航海訓練所練習船（大成丸、海洋丸）を見学いただき、海洋国日本の歴史や文化に触れ、理解を深めていただきました。



（2）国際シンポジウム（15:15～17:40）

「海洋遺産を活用した教育」についてセッションを行うとともに、2日間のシンポジウムの結果を総括し、『横浜宣言』としてとりまとめました

横浜宣言においては、

- ① より高度で技術的に複雑な船舶の運航に必要な基準を満たす、質の高い人材が十分に供給されるよう、海事教育・訓練を更に高度化すること
- ② IMOの特に人的要素に関する条約を効果的・効率的に実施する能力を強化するため、発展途上国に対するIMOの技術協力、法的協力を強化すること
- ③ 世界海事大学等の国際的な教育機関における海事教育を更に高度化するとともに、国際海事大学連合の活動を通じその連携を強化すること
- ④ 全ての海洋関連産業の需要に合致する人材や、海洋環境の保護においてより広範な課題に対応できる人材を供給するため、法律、行政、産業、技術を含む多分野横断的な教育・訓練を促進するとともに、各分野における教育・訓練の質的向上及び範囲の拡大を行うこと
- ⑤ 海事教育及び訓練へのより幅広い支援を実現するため、十分に訓練、教育された人材を更に確保する必要性について、全ての利害関係者の認識を高めるとともに、すべての利用可能な手段等を通じ、一般市民、特に将来世代の、海洋への理解を更に高めること
- ⑥ 海洋に関する認識を高め、海事遺産をたたえ、海が人類にもたらす恩恵を想起し感謝するための特別な日をまだ制定していない国に対し、制定することを奨励すること。

が、宣言されました。



森重局長による横浜宣言

### (3) 閉会式 (17:40~18:15)

西村副大臣及びIMO 関水事務局長が、2日間を振り返り、総括の挨拶を行いました。また、開催地である林横浜市長から挨拶をいただきました。

最後に、IMO 世界海の日パラレルイベントの実施国旗を次期開催国であるトルコに引継ぎ、トルコ代表が来年に向けた抱負を述べられ、閉会となりました。



西村副大臣からトルコへの開催国旗の引継ぎ